授業科目名・形態	日常生活支援技術演習Ⅶ（家事）演習	必修・選択の別	選択	単位数	1
科目担当者氏名	石岡和志	実務経験の有無	有	開講期	２年後期
科目ナンバリング	W4-2025c				

【授業の主題】

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう根拠に基づいた介護実践を行なうための知識・技術を習得する学習とする。また、家事技術が自分自身の生活に直結していることを理解し、対象者の日常生活に欠かせない家事援助の知識と技術を修得することを目標としている。

【到達目標】

生活の継続性を支援する観点から、対象者が個々の状況に応じた家事を自主的に行なうことを支援するための基礎的な知識・技術を習得する。

【授業計画・内容】

第 1 回　オリエンテーション・自立生活を支える家事
第 2 回　自立に向けた家事の介護をするために介護福祉職がすべきこと
第 3 回　自立に向けた家事の介護：調理・洗濯・掃除・ごみ捨て
第 4 回　自立に向けた家事の介護：裁縫・衣類、寝具の衛生管理・買い物・家庭経営
第 5 回　家事の介助の技法①（掃除・ごみ捨て）
第 6 回　家事の介助の技法②（裁縫）
第 7 回　家事の介助の技法③（裁縫）
第 8 回　家事の介助の技法④（洗濯）
第 9 回　家事の介助の技法⑤（特別食の調理）
第 10 回　家事の介助の技法⑥（特別食の調理）
第 11 回　家事の介助の技法⑦（調理技術の実践）
第 12 回　家事の介助の技法⑧（調理技術の実践）
第 13 回　家事の介助の技法⑨（調理技術の実践）
第 14 回　家事の介助の技法⑩（調理技術の実践）
第 15 回　多職種との連携（在宅・施設の場合）

【授業実施方法】

演習を基本としながら、講義も交える。

【事前・事後学習】

高齢者や障害者の食事に関わる毎回 30 分の予習及び講義内容を踏まえた 30 分の復習を行うこと。

【主な関連する科目】

「介護の基本」「社会福祉概論Ⅰ」「高齢者福祉論Ⅰ」「障害者福祉論Ⅰ」

【教科書等】

最新・介護福祉士養成講座 6　生活支援技術Ⅰ　第 2 版　中央法規出版

【参考文献】

介護福祉のための家政学実習 建帛社.

【成績評価方法】

提出物（裁縫技術、調理技術、レポート等）70%、グループワーク等 30%で総合的に評価する。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

福祉施設での介護職員としての経験を活かし、ICF に基づいた家事援助が提供できるような実践的授業にしたい。

【学生へのメッセージ】

この授業を通して工夫しながら家事の楽しさを学び、また実際の現場で活用する場面を想定して授業に臨むことを期待する。家政実習室利用時は、中履き、エプロン等を準備してほしい。